

# 平成29年度「アクティブ・ラーニング推進事業」 西尾市の取組について

## 1 はじめに

本県の平成28年度全国学力・学習状況調査では、小学校の国語、算数は全国の平均を下回っている。これは本市にも当てはまる実態である。特に、上位と下位の二極化が見られる。下位層児童の学習への意欲化を図り、主体的に学ぶ姿を育てる必要がある。

そこで、授業に「主体的・対話的で深い学び」を目指すアクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、友達と学び合う活動を通して、自らの考えを深めたり広げたりすれば、学ぶ楽しさを実感できる。そして、学ぶ楽しさを実感した子供たちは学習意欲が向上し、主体的に学ぶ姿が見られ、学力向上を図ることにつながっていく。

そのような授業づくりとともに新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、自分の考えを認め、受け止めてくれる「学級の仲間」を育てること、1時間の授業に集中して意欲的に取り組むための一人一人の「気力」「体力」を育てることも重要と考えた。そこで、「授業づくり」「学級づくり」「体づくり」の三つの柱を考え、以下の活動内容を考え実践した。

## 2 活動内容

- (1) 推進校に外部講師を招聘し、公開授業研究会や研修会を開催する。
  - ・先進的な取組の紹介や、授業展開について指導を受け、市内各校に広げる。
- (2) 「授業づくり」「学級づくり」「体づくり」について、各校の実態に応じた取組を行う。
- (3) 研究推進校及び各校の取組の集約と成果
  - ・県義務教育課のWebページにて公開する。
  - ・リーフレット等にまとめ、全校に配付し、共有、活用を図る。

## 3 実践の概要

### (1) 推進校にて外部講師を活用した公開授業研究会

#### ① 「学級づくり」研修会

5月24日に、早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生を招いて「学級力向上プロジェクト」の進め方について学んだ。子供たちが学級力アンケートにより学級の状態を評価し、その結果をリーダーチャートで確認・分析して学級の問題を見つける。そして、見つけた学級の問題を解決するための活動を考えて実行する。この一連の流れを繰り返しながら、教師がどのような指導を心掛けるべきかを学んだ。また、一年間を通し、いろいろな学校行事で学級をどう育てていくかという年間指導計画の作成方法についても学んだ。

#### ② 「体づくり」研修会

6月25日に、関西国際大学教授 中尾繁樹先生を招いて授業になかなか集中できない子への指導について学んだ。一人一人の理解を深め、その子に合った言葉がけや学習環境づくりの大切さを教えていただいた。また、アクティブ・ラーニングの考え方についても御指導頂いた。

#### ③ 「授業づくり」研修会

10月19日に、明星大学教授 小貫悟先生を招いて「授業づくり」について研修を深めた。授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業展開の在り方について御指導頂いた。授業の前半で知識・理解を図り、得た知識・理解を後半で活用する「山場を中心とした授業展開」について、詳しく教えて頂いた。

## (2) 教務主任会での報告会

### ① 中間報告会

8月の教務主任会で、推進校が1学期に取り組んだ実践を報告した。子供たちの主体的・対話的な学習を生み出すために「判断を促す(問う)学習課題」を取り入れ、子供たちの中での考え方のずれを引き出し、話し合う必要性を生み出すことが報告された。また、各学校においても「授業づくり」「学級づくり」「体づくり」の実践に取り組むことを依頼した。

### ② 研究成果報告会

11月末の教務主任会で、推進校の研究の成果が発表された。学級力向上プロジェクトの取組により、主体性や判断力が向上した。体づくりでは、清掃や休み時間など日常生活の中に体力向上の活動を取り入れる有効性が報告された。また、授業づくりでは、授業前半で得た知識・理解をもとに、後半でその理解を生かして活用・適用する授業展開が報告された。

## (3) 「授業づくり」「学級づくり」「体づくり」についての各校の取組(報告例)

### 【学級内での友達関係づくり】

#### 質問ジャンケン(〇〇小学校)

2人で向かい合ってジャンケンをします。勝った人が10の質問から選んだ質問をし、負けた方が答えます。制限時間内でこれを繰り返します。制限時間がきたらあいさつして、次の人と質問ジャンケンをします。

友達との関わりを持ち、相手の理解を深める活動です。



### 【話し合い活動の活性化】

#### 立場を可視化するネームプレート(〇〇小学校)

判断をうながす学習課題で話し合いを行うために、自分がどちらの立場に立つかを明確にします。黒板にネームプレートを貼り、自分がどちら側の考えかを示します。ネームプレートをもとに、話し合いを進め、友達のと自分の考えとを比較しながら聞き合うことで、自らの考えを深める対話的な学びへとつながっていきます。



## (4) 各校の取組とリーフレットなどの作成(1・2月)

各校で取り組んだ「授業づくり」「学級づくり」「体づくり」の取組についてまとめたものを集約した。その中から有効な手だてなどをリーフレットにまとめ、市内36校に配布し、市内各校の取組について共通理解を図った。

## (5) 研究のまとめ

教務主任会や校長会で研究のまとめを発表し、今後の教育活動に生かしてもらおうよう依頼した。

## 4 事業成果

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「深い学び」としての「授業づくり」、「主体的な学び」としての「体づくり」、「対話的な学び」としての「学級づくり」の3本柱を中心に取り組んだ。その成果を、推進校と各校の取組に分けてまとめる。

### (1) 推進校の取組の成果

#### ①授業づくりの取組

##### ア 判断をうながす（問う）学習課題

- ・子供たちが、「どっちだろう?」「できるかな?」といった疑問や問いをもたせることは主体的に考える手だてとして有効であった。子供たちの見方や考え方を引き出し、互いの考えの相違点を見いだすことができた。

##### イ 山場を授業の中心に置いた授業展開

- ・導入から授業の前半で学習課題に対する答えを見いだし、「そうか、分かった!」と、得た知識や考え方を授業の後半の新たな課題解決に活用・適用する授業展開に取り組んだ。1時間の中で子供たちは学習で得た資質・能力を課題解決に生かせることが実感できた。

##### ウ 話し方・聞き方を身に付ける「トークタイム」

- ・「犬と猫どっちがすき?」「もし宝くじが当たったら何を買う?」など、いろいろなテーマについて自分の考えを自由に発表し、友達の考えを聞き合う活動を通し、相手に分かりやすい話し方やうなずきながら聞く聞き方を身に付けた。

##### エ 書く姿勢、丁寧な字形を身に付ける「かきかきタイム」

- ・「足裏ぺったん。背筋はピン!お腹と背中にげんこつ一つ、左手置いてさあ書こう。」を合言葉に、10分間、手本の視写に取り組んだ。10分間集中して書くことにより文字を丁寧に書く意識が高まった。

#### ②学級づくりの取組

##### ア 学級力向上プロジェクト

- ・学級力アンケートをもとに自分たちの学級の実態を分析し、改善に向けた取組を考えて実践した。この活動を繰り返すことにより、学級力アンケートのレーダーチャートが大きく広がりを見せ、学級力の向上が見られた。

##### イ 他者理解を図る「アドジャン」「質問ジャンケン」

- ・ソーシャルスキル・トレーニングとして「アドジャン」と「質問ジャンケン」を朝の活動に取り入れた。ペアやグループで相手にいろいろな質問をし、その答えを聞くことで友達との関わりを生み相互理解が図られた。いつも教室は元気な話し声であふれていた。

#### ③体づくりの取組

##### ア 体力向上プロジェクト

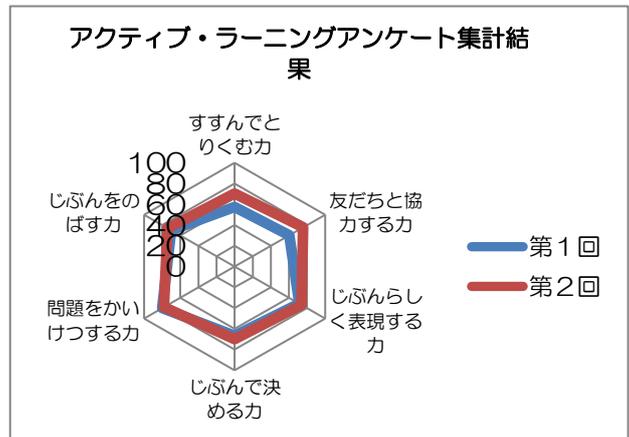
- ・朝の会では、全校3分間のめいそうタイムを行い姿勢を正しく保つことで体かんを鍛え、目を閉じて心を落ち着かせることで授業に向かう気力を養った。また、休み時間では外遊びを推奨し、清掃では机を持ち上げて運び、雑巾がけは両手で行うなど、日常生活の中で体づくりを意識した。帰りの会後は、担任とハイタッチをして下校した。相手との距離感等を認識する力を鍛えるだけでなく、心をほぐすことにもつながった。

##### イ 体づくり強調月間・週間

- ・鉄棒強化月間（6月）、マラソン週間（12月）、縄跳び強化月間（1月）などを設定した。チャレンジカードを作成し、多くの子供が合格証を目指して運動に親しんだ。

#### ④アクティブ・ラーニングへの意識の高まり

アクティブ・ラーニングに対する意識調査を1学期と2学期に行った。その結果が右に示すグラフである。1学期に比べ、「主体性」「協調性」の向上が見られる。大きな変化とは言えないが、子供たちの中に「自ら考え助け合おう」という意識が育ちつつあることを感じる。本校の取組を継続することで更なる向上を期待したい。



#### (2) 各校の取組

##### ①授業づくり

###### ア 問題意識に沿った学習課題

- ・学習課題を解決したいと思えるような授業の導入の工夫。【中学校】
- ・児童の体験活動から問題意識を生むための手だての工夫。【小学校】

###### イ 主体的な話し合い活動

- ・4人グループを基本とし、少人数で全員が必ず参加できる場面の設定。【中学校】
- ・自分の考えに自信をもたせるためのペア学習、グループ学習。【小学校】
- ・話し合い活動を深め、ねらいとする価値に迫るための「役割演技」。【小学校】
- ・ペア、グループ対話で意見交流し、クラス対話で深める。【小学校】

###### ウ 授業スタイル

- ・課題を自分たちで見付け、主体的に話し合い、課題を解決していく課題解決学習。【中学校】
- ・単元を通して、グループに課題を提示し続けることで、互いに考えを出し合い、仮説・実験・検証にじっくり取り組む単元構想。【中学校】

###### エ その他

- ・地域学習により、地域の方の協力を得て、故郷を大切に思い、その思いが疑問や問題意識を生み、子供たちの調べ学習、話し合いによって学習を深めた。【小・中学校】
- ・日々の授業において、学習習慣の定着と伝え関わり合う力を高めることをねらった自己評価短冊に取り組んだ。【小学校】

##### ②学級づくり

- ・否定的な言葉を肯定的な言葉に言い直すりフレーミング活動に取り組んだ。【小学校】
- ・話し合いのルールやマナーを身に付け、意見交流を楽しむ学級の雰囲気づくりのため、給食後の15分間、コミュニケーションタイムを行った。【小学校】
- ・学習や学校生活において、ペアやグループ、学級での話し合い活動を促進するための場づくりをし、よりよい人間関係づくりをねらいとして、リレーションゲームに取り組んだ。【小学校】

##### ③体づくり

- ・子供たちと教師が、運動場で20分間ゲームや集団遊びを行う「体を動かそうタイム」。【小学校】
- ・基礎体力の向上を図るため、水泳・縄跳びを発達段階に応じた目標を設定した努力賞。【小学校】
- ・苦しさを乗り越え、支え合う仲間意識を育てる業前マラソン。【小学校】

#### (3) アクティブ・ラーニング推進事業

アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業は、単に授業改善に取り組むだけでなく、知・徳・体のバランスの取れた教育活動の上で成り立つと考え、「授業づくり」「学級づくり」「体づくり」の3本の柱のもと、推進校を始め各校での取組の手だてが明らかになった。新学習指導要領の実施に向け、各校の取組をまとめたリーフレットをもとに共通認識を図ることができた。

## 5 今後の事業計画

今回の推進事業をすすめることで、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善について、それぞれの学校が特色を生かして、様々な視点からアプローチをするきっかけとなった。

しかし、子供たちが主体となり、自ら学びへと動き出す授業の実現に向けた授業改善においては、まだまだ教師がしゃべりすぎる授業が多く、今後も教師の授業力向上のための研修を重ねる必要がある。若手教員やミドルリーダー対象の研修を継続し、教員の力量を高めていきたい。

また、教務主任会においては、新学習指導要領の実施に向けて、引き続き各小・中学校の情報交換をもとに、子供たちの学ぶ意欲を高める授業づくりの実現に向けて研修を重ねていく。今後も、子供たちを取り囲む様々な立場の者が手を携えチーム学校として、目の前の子供たちの成長を支えていきたい。